## 令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画 中間·最終)

## 昭和北中学校区 校番 17 学校名 呉市立昭和北中学校

a 学校教育目標

(貫) 未来を拓く人間の育成

b 経営理念 ミッション・ビジョン

〈ミッション〉(学校の使命) 生徒・保護者・地域の期待に応える中学校教育の実現 〈ビジョン〉(将来の学校像) 生徒に対する「愛情」教育に対する「情熱」 社会に対する「使命感」あふれる学校

c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状

(現状) 基礎的・基本的な学力が定着していない生徒が見られる。特別な支援を必要とする生徒が多い。 意欲的に学校生活を送っている生徒が多いが、学力面、生活面ともに二極化傾向がみられる。

(重点) 学力の向上(ユニバーサルデザインを意識した授業改善) 社会性の涵養(規範意識の向上・心の回復力の向上)

育成を目指す資質・能力

況)と今年度の重点

(貫) 知識・技能 コミュニケーションカ 自らへの自信

	評価計画(中期経営目標を設定してから 1)・2・3 年目)					自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目	上半期 下半期					
					標 値	i 達成 値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	基礎的・基本的な内容の習得を図り、思考力・表現力(コミュニケーション力)を養う。	対話的な授業による学習意欲の喚起	「めあて」と「まとめ」, 「指導」と 「評価」が一貫している授業の 実施	授業が分かりやすいと感 じている生徒の割合 (アンケート調査)	90	90	100%	Α			
			生徒指導の三機能を生かした 授業の工夫改善	授業中に全員が応答できたり、参加しているという 気持ちをもてる生徒の割合(アンケート調査)	90	92	102%	Α			
		読書活動の推進	朝読書の充実 図書館の活用	1か月の間に本を1冊以上読んでいる生徒の割合	65	68	105%	Α			
確かな学力		自分の志を表現できる生徒の育成	進路決定に係る面接指導の充 実	中学3年時に自分の志, 理由,道筋を3文以上・自 分の言葉で表現できる生 徒の割合	95	ı	-	-			
		言語能力,情報活用 能力,課題発見・解決 能力等の育成	課題克服を意識した授業の実施 試験週間や長期休業中の個別 学習指導の充実	「全国学力・学習状況調査」の通過率と年度後半に課題を絞って実施する「自校調査」(定期試験の類似問題等)の通過率との比較	国数英で各10 P	1	-	_			
**	貫 基本的な生活習慣を身に付け、進んで他者とかかわりながら、社会に貢献しようとする生徒を育成する。	「自らへの自信」の涵養及び道徳的実践力の向上	授業等を通しての自己有用感の向上	「自分にはよいところがあ る」と思う生徒の割合 (アンケート調査)	增80	82	103%	Α			
				「学校に行くのが楽しい」と 思う生徒の割合 (アンケート調査)	85	86	101%	Α			
		規範意識を涵養	生徒指導規程を核とする組織 的な指導の推進による自己指 導能力の育成	自分は、正しい服装を保っていると感じている生徒の割合 (アンケート調査)	95	95	100%	Α			
				自ら時間を守ろうとする生徒の割合(アンケート調査)	95	96	101%	Α			
な心				自らあいさつをしようとす る生徒の割合 (アンケート調査)	95	94	99%	В			
		安心・安全な環境	災害から自分の命を守る意識 の向上	「自分が住む地域に起こり やすい災害」について理 解している生徒の割合	90	87	97%	В			
				災害時に避難する場所や 避難の仕方について理解 している生徒の割合	90	94	104%	Α			
*	活力があり、主体的に体力・ 運動能力の向上に取り組む 生徒を育成する。	活力を喚起する体験活動の充実	学校行事・生徒会活動の活性 化	学校行事や生徒会活動等 に満足している生徒の割 合(アンケート調査)	90	91	101%	Α			
健やかな体		家庭・地域・学校生活を 通しての主体的な体力つ くり、運動能力の向上	体育の授業及び「くれ・チャレン ジマッチ・スタジアム」を活用す る	50m走(男女), 長座体前 屈(男女), 持久走(男子), シャトルラン(女子) の6種目中, 3種目以上全 国平均を上回るようにする。	3	ı	-	-			
業務改善	持続可能な教育環境の整備	教育活動へのやりがい	教職員間のコミュニケーションの充実	「日々の業務の中で充実感を 得られている」と感じる教職員 の割合	80	-	-	-			
		長時間勤務の削減	週1回の定時退校の徹底 部活動休業日の定着	時間外勤務が月45時間を超 えない教職員の人数の割合	100	65	65	С			